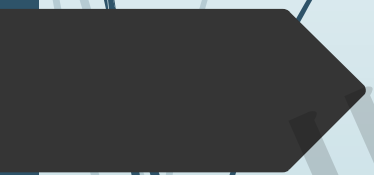


臥床患者の拘縮・褥瘡予防における ポジショニングについての意識調査報告



【はじめに】

- ▶ 現在、個々の経験によるポジショニングを行う事が多く、拘縮の進行や骨折、褥瘡発生の予防となっているのか疑問である。



【対象・期間】

看護師16名 介護士8名 計24名

令和7年6月～令和8年1月の8か月

【方法】

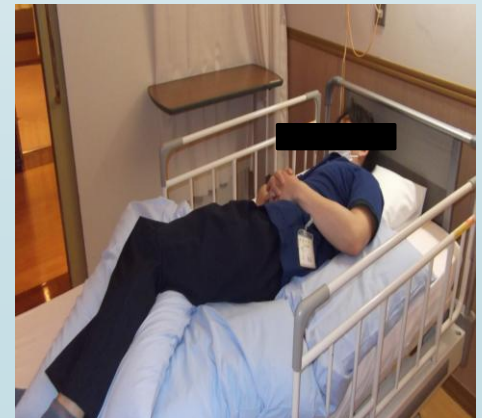
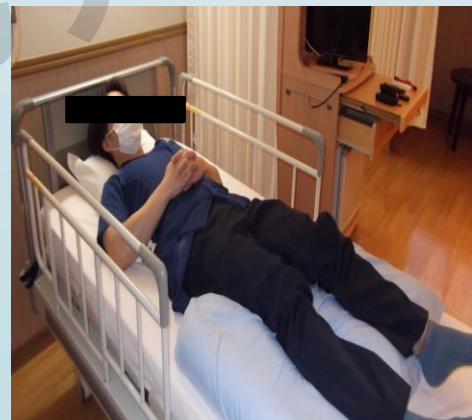
看護師、介護士4名程度のグループで実施。

仰臥位では仙骨部、側臥位では腸骨部の体圧を測定

A法（現在のポジショニング）
体交枕と下肢の間に隙間
身体の捻れが生じている

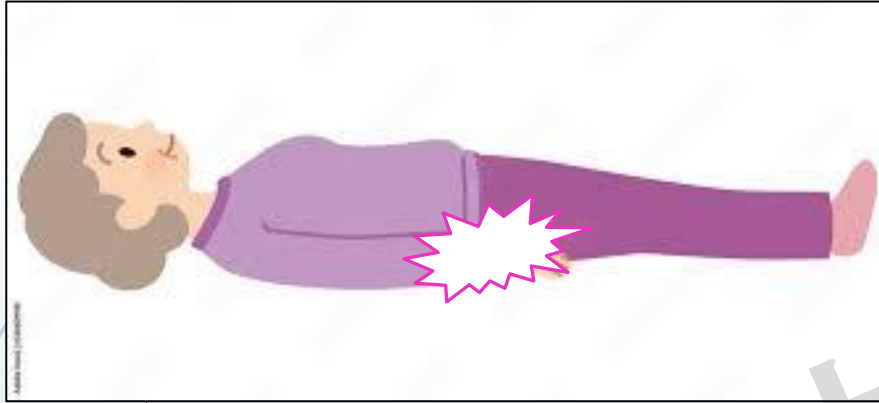


B法（修正したポジショニング）
面で支えている
身体の捻れない状態



B法について検討したアセスメント項目

- ① 頭部から足側へと順番に動かす
- ② 体軸を整える
- ③ 点ではなく面で身体を支える
- ④ 背抜きを行う
- ⑤ 拘縮予防には重力を利用する
- ⑥ 自分で動こうとする動作を妨げない



仰臥位は仙骨部を測定



側臥位は腸骨部を測定

A法とB法の測定結果から褥瘡発生基準である
40 mmHgを超えた数値を比較した。



写真1 エバーフィット



写真2 エバープライウド

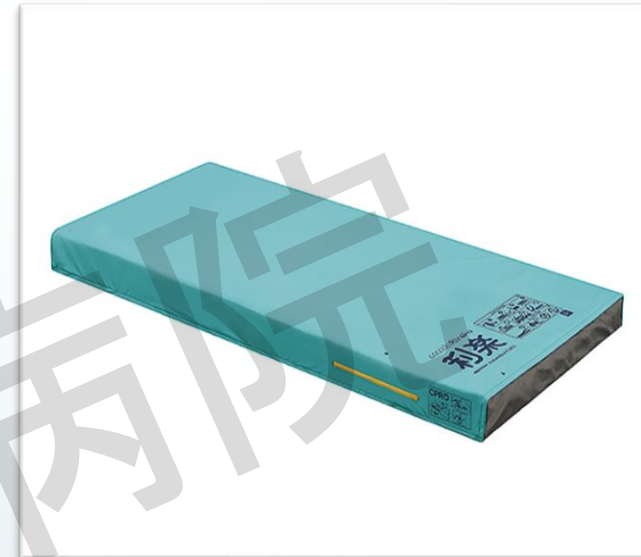


写真3 ここちあ利楽

(使用マットレス販売元 パラマウントベッド株式会社)



写真4 体圧測定器
プレッシャーキャニングエイドゼロ

意識調査

設問 1. ポジショニングを体験して今回の経験が有意義であったと思いますか。

設問 2. 今回のポジショニングを体験して今後患者さんへ活かすことができますか

設問3. 今回の体験についてのご意見

回答：「思う」「やや思う」「どちらともいえない」
「やや思わない」「思わない」

【結果】

表1 褥瘡発生基準である40mmHgを比較した

エバーフィット
対象者5名

基準値 40mmHg以上	仰臥位 修正前	仰臥位 修正後
	0名	0名
	側臥位 修正前	側臥位 修正後
	3名	0名

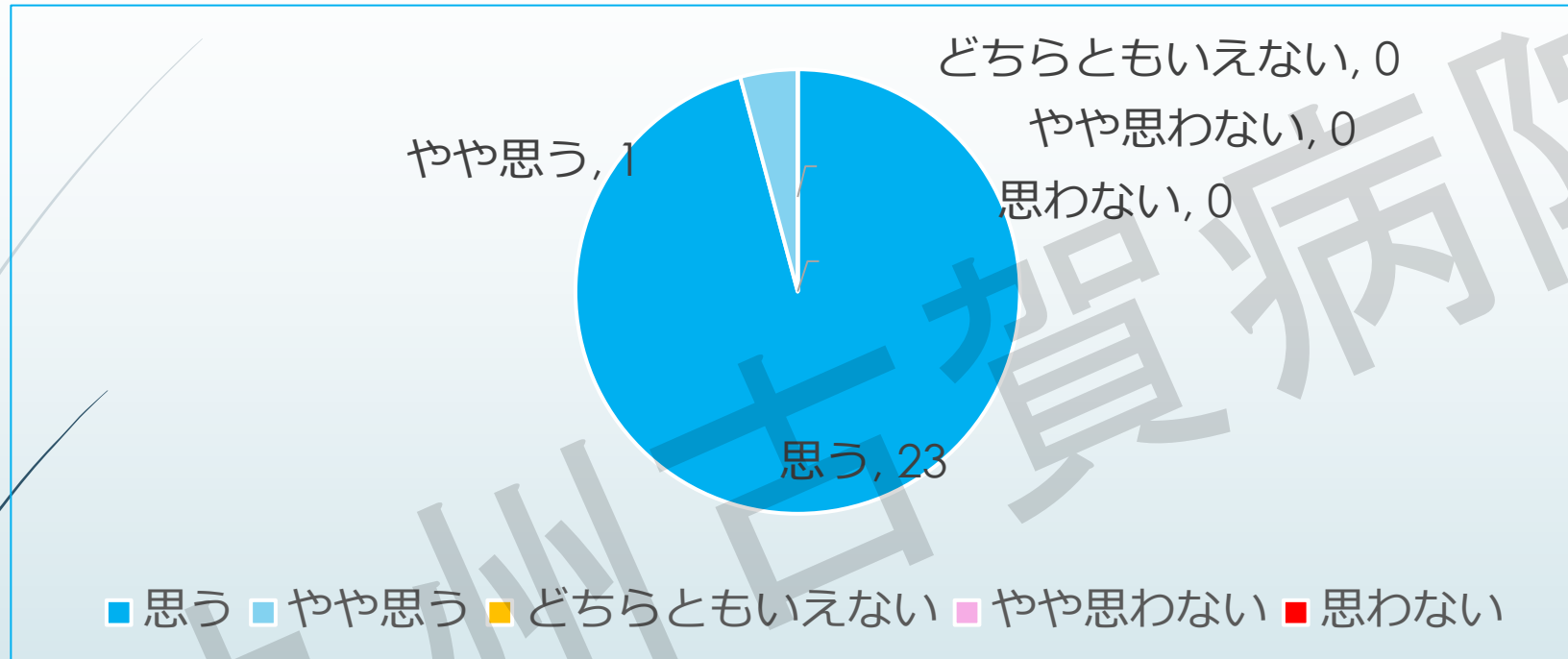
エバープラウド
対象者16名

基準値 40mmHg以上	仰臥位 修正前	仰臥位 修正後
	1名	0名
	側臥位 修正前	側臥位 修正後
	5名	0名

ここちあ利楽
対象者3名

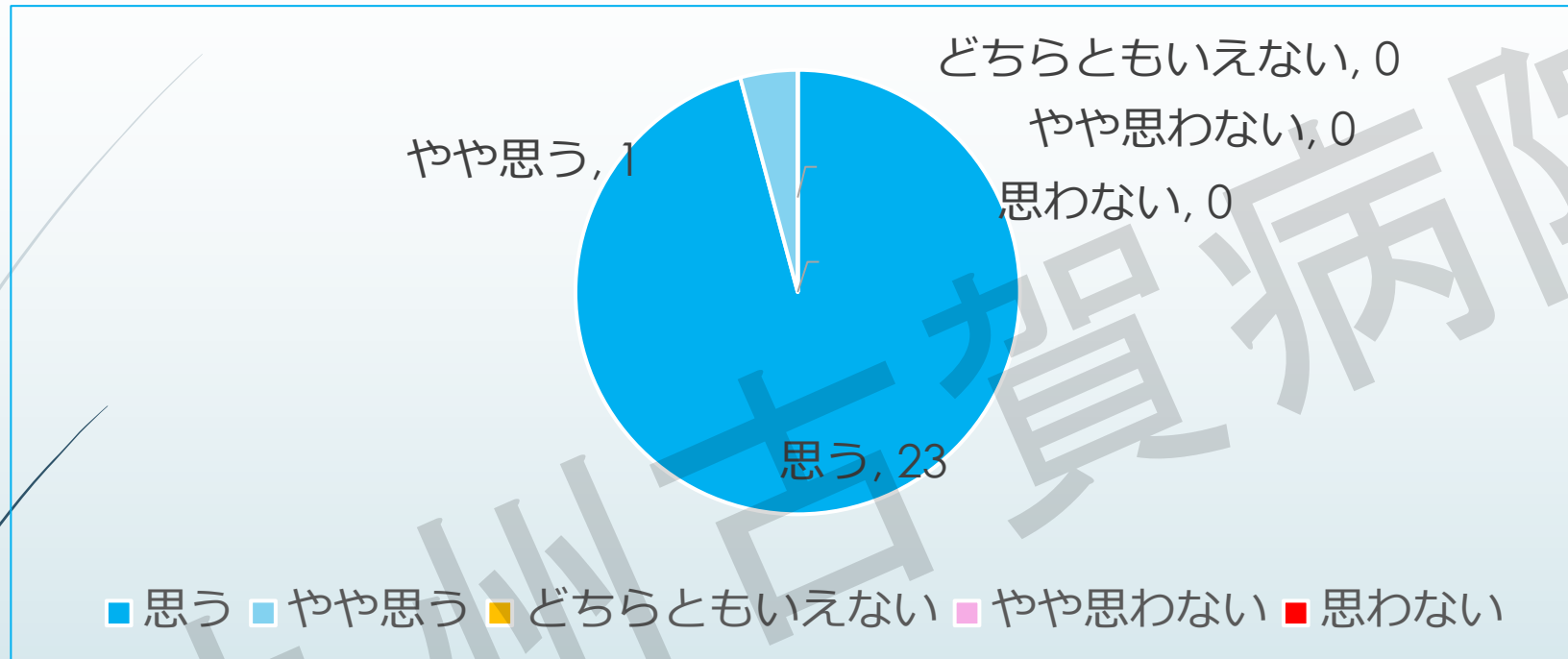
基準値 40mmHg以上	仰臥位 修正前	仰臥位 修正後
	0名	0名
	側臥位 修正前	側臥位 修正後
	1名	0名

今回のポジショニングを体験して経験が有意義であった
と思いますか？



- 体験をしてみて今現在のポジショニングでは安楽な姿勢になっていない長時間同じポジショニングでは苦痛しかない。
- 不適切なポジショニングを続けてしまうと拘縮、褥瘡、身体の痛みなどつながってしまうことを改めて理解することができた。
- 夏場では布団が無くてとても蒸れる状態であった。

今回のポジショニングを体験して今後患者さんへ活かすことができますか？



- ・自分が体験して不快に感じたり、苦痛に感じたことは患者さんに行わないよう意識することができる。
- ・身体に密着して枕を入れることで、患者さんの負担がなくなると思う。
- ・一人一人患者に合わせてポジショニングする事は大切だと思うので活かしていきたいと思った。
- ・この体位で2時間過ごす苦痛でないかどうかなど考える事が出来た。

今回の体験についての意見では・・・



- ・体験することで患者の立場、状況を理解できる事は有意義であり良い経験となった。
- ・患者さんの何気ない日々のケアを体験することで相手の身になり考える事が出来るので、他にも何か体験出来たら良いと思った。
- ・スタッフが全員実施することで個人で考えながらポジショニングを実施出来るようになったらいいと思う。

【考察】

どんなに効果的なマットレスを使用していても、不適切な体位をとることで体圧が上昇し褥瘡発生のリスクになることが言える。

従来行っていた右側臥位のポジショニングでは、不快で動けないというスタッフの意見が多く聞かれ、姿勢反射を阻害していることが分かった。

今回の研究では、短時間でのポジショニングを実施したが、スタッフからは不快感の訴えも聞かれており、特に夏場などは患者のポジショニング枕による不快感に対するケアも検討していく必要がある。

【結論】

調査結果から臥床患者の拘縮、褥瘡予防におけるポジショニングを体験し、見直しができたことで、意識向上につながったと考えられた。

ご清聴ありがとうございました。



引用・参考文献

- 1) 田中マキ子：実践に役立つ褥瘡予防 どこまで理解？ポジショニングの新常識 褥瘡予防とポジショニングの実際①：月刊ナーシング. 28 (9) .17-40.2008
- 2) 細田恵莉奈. 道巻夕紀子. 梅村敏彰. 安田智美：長時間同一体位におけるポジショニングの安楽性の検証：富山大学看護学会会誌 第16巻 2号 2017